

ものがない。すぐに設計図がでてきて、その説明となる。筆者等は従来ダーツの研究を行ってきたので、今回はダーツ的な立場から設計法を考えてみた。

2. スラックスを、脚を入れる二つの円筒を股ぐりの所で一つにしたものと考え、これに股下にダーツをとってしぼり、更に股上の部分にダーツをとり、ウエストを作る順序で、どのような変化があらわれるかを調べる。

3. 先ずダーツなるものはダーツ線に向って周辺が斜にひきつけられる結果を招来する。脚を入れる円筒に股の所から折目線が外向するように、内股線と脇線とを作るために同量のダーツを入れると、バランスがとれて脚を入れる部分に捻れはできない。前部市川線と後部市川線はそのままにしておき、脇線で全部の量を等分ダーツをとると多少折目線はより外向するように総合的な力が作用する。

次に前身に脇線に入れたダーツの約半分を与え、残りの全部を後部市川線に集中させるときは折目線は非常に外向するように総合的な力が作用した。

C—60 ダーツに関する研究（第10報）  
—スラックス設計法のダーツ的考察—

高知女大家政 市川 一夫  
村田 菊子  
○津野真千子  
中島 靖子

1. スラックスの設計について、はじめて勉強をしようとするとき、どの参考書を調べてみても、あまりに簡単であり、それ程必要性がないのか基本的な説明のある